



- 特集・国民健康保険 .....2・3面
- 長寿祝金の支給 .....4面
- 市民ガイド .....5~9面
- 市民大清掃は7月8日 .....10面

市公式携帯サイト 無料メルマガ配信中! 松山Smile通信 検索

発行:松山市役所/編集:総合政策部広報課/毎月1日・15日 ☎948-6705 ☎934-2578 HP http://www.city.matsuyama.ehime.jp/

一人でも多くの人を笑顔に 全国に誇れる、わがまち松山

**ボランティアの声**

山崎 蒞さん (新立町)

昨年開催されたフォーラムで考えに共感し、ボランティア研修に参加しました。活動はまだ発展段階ですが、子どもたちと休み時間などを利用して一緒に作業をしたり話を聞かせてもらったりしたら楽しいだろうと考えています。



カウンセラーと昼休みに触れ合う児童

# 東雲小にボランティア派遣

子どもたちのコミュニケーション能力の育成を図ろうと、医療や教育の支援活動を行う「成育コミュニティ・ボランティア」を派遣する取り組みの協定を5月8日、松山赤十字病院と松山市、市教育委員会の3者で締結しました。今年度は同病院に近い東雲小学校をモデル校とし、同校でのノウハウを蓄積し、他の小中学校などにも広げていく方針です。

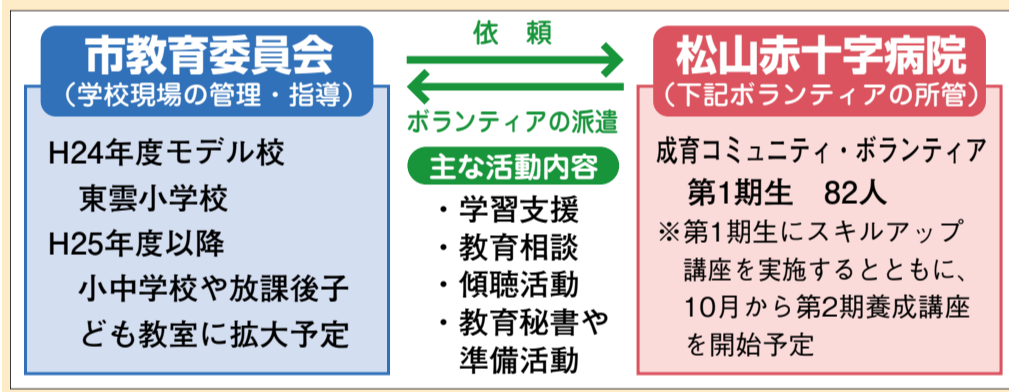
# 医療 教育 連携で子どもたちを笑顔に!

「成育コミュニティ・ボランティア」は昨年7月に開催された「医療と教育の連携フォーラム」で同病院から提案されたもので、同病院が公募した昨年10月から半年間、コミュニケーション能力や医療知識を学ぶ研修を実施し第1期生82人を養成。同ボランティアが児童・生徒や教職員、保護者のサポートを継続的にを行います。

調印式で、淵上忠彦院長は「教育の現場に医療が入ること、子どもたちの身体面のみならず精神面でも早期に適切な対応ができる」と意義を話し、野志市長は「多忙である教育と医療の間に立つ人が出てきて大変ありがたい」と謝辞を述べました。

取り組みが開始されたばかりの東雲小学校では早速、小児科カウンセラーが訪れ、児童らと交流したり、ボランティアが学校の掲示を手伝ったりしました。池谷三和子校長は「高度な技能を身に付けた方が学校現場に入って助けていただけることで、子どもたちが豊かに育つとともに、教職員が子どもたちと向き合える時間が増えます」と期待を込めて話しました。

## 成育コミュニティ・ボランティアの仕組み



お問い合わせは、(教)学校教育課 ☎948-6599 ・ ☎934-1815へ

**募集テーマ**  
魅力あるまちづくりや市民生活に関する内容で、アイデア的なものから詳しい調査や資料に基づくものまで、幅広いテーマで募集します。

※本市の総合計画やまちづくりに関する取り組み(市ホームページ)にあり(市ホームページ)を参考にしてください

**応募資格**  
大学・大学院・短期大学・専門学校などに籍を置く学生で、居住地や年齢に制限はありません。グループでの応募もでき、応募点数に制限はありません。

**応募方法**  
8月10日(金)(消印有効)までに、直接または郵送、eメールで左記の提出物(直接または郵送の場合は2部)を、〒790-8571 企画政策課(市役所本館5階) ☎seisaku@ci.city.matsuyama.ehime.jp

**提出物** 日本語で書かれた2000~3000字程度の論文(パソコンなどの使用可)。なお書ききれない場合、3000字を超えても可▼論文本文の前に、200字程度の要約文▼応募用紙(市ホームページ)

**賞・結果発表**  
【賞】最優秀賞1点以内(10万円相当の賞品) ▼優秀賞2点以内(5万円相当の賞品) ▼佳作2点以内(3万円相当の賞品) ▼アイデア賞2点以内(3万円相当の賞品) 【結果発表】11月ごろ(予定)

**その他**  
入賞論文の著作権は市に帰属し、広く公表される場合があります▼応募論文は返却しません

お問い合わせは、企画政策課 ☎948-6816 ・ ☎934-804へ

**まちづくりの挑戦者求ム!**

第14回 学生による政策論文募集

8月10日 消印有効

「学生による政策論文」を募集します。一人でも多くの人を笑顔にできるように、まちづくりなどへのアイデアや意見をどしどしお寄せください。

第14回 学生による政策論文募集

保存してください。いつかまた お役に立ちます